

～ 生乳の抗生物質残留事故防止のために確認しましょう ～

暑い夏が過ぎ、すごしやすい気候になってきました。しかし、暑熱時に牛が受けたストレスの影響は、ボディーブローのようにじわじわと乳房炎や繁殖成績に現れてきます。

また、牧草やサイレージ用とうもろこしの収穫時期は、ほ場作業が増え、忙しくなることから判断力の低下や、体調を崩しやすく注意が必要です。以下のことを確認して、生乳の抗生物質残留事故防止に努めましょう。

① マーキングをしている。

最低でも2種類。複数のマーキングで見落としのリスクを減らしましょう。

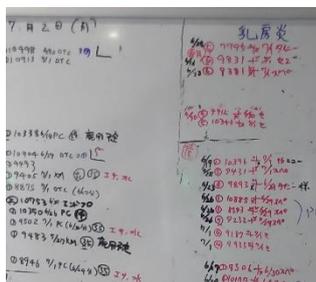
- 足にバンドをつける。
- スプレーで乳房や牛体後駆にマークする(消える前に再度マーキングする)。
- つなぎ牛舎：牛の前に看板をつける など



② 治療牛について、搾乳者全員の周知を徹底している。

搾乳前に治療牛の確認・搾乳者間の連絡、打合せを徹底しましょう。

- 連絡ボードを設置する。
- 口頭で治療牛を伝えあう。



今朝から○番も
治療始めたわよ

治療中の牛は
○番だよ



③ 抗生物質検査キットを使用している。

ミルクローリーへの混入を防ぐ最終出口の対策として、抗生物質検査キットの使用をお勧めします。

毎日の慣れた作業こそ確認を徹底し、事故の防止に務めましょう！